

長岡市長記者会見要旨

日 時：令和 7 年 3 月 31 日（月）午後 1 時 30 分から

会 場：アオーレ長岡 東棟 4 階 大会議室

【会見項目 1：2025 長岡まつり大花火大会について】

（市長）

今年の長岡まつり大花火大会についてです。

今年は長岡空襲、そして戦後 80 年の年にあたります。この長岡空襲によって亡くなられた方々への慰霊、あるいは焦土と化した街を復興させた先人の皆様への感謝、そして未来に向けてさらなる発展を願い、誓う長岡まつりにしたい、そのような花火大会にしたいと考えています。

今なお世界では戦争が絶えない、まだ引き続きいろいろなところで戦争、紛争が続いているという状況の中で、長岡花火の大恩人の嘉瀬誠次さんは、「世界中の爆弾を全て花火に変えたい」とおっしゃっていました。長岡空襲、そして戦後 80 年の節目に、改めてこの長岡花火を通して、平和への思いを全世界に向けて発信したいと思っています。多くの皆さんに、この花火大会を楽しんでいただきたいと思います。

今年は土日開催となります。昨年同様に全国から大勢のお客様が長岡においでになります。安全対策については花火財団でも万全の対策を期しておりますが、報道の皆様方からも安全に関する周知、ご協力をお願いしたいと考えています。

花火大会の概要などにつきましては花火財団からご説明を申し上げたいと思います。

（長岡花火財団 高見理事長）

8 月 2 日・3 日に開催される長岡まつり大花火大会は、例年通り安全安心を最優先に運営し、来場者に喜んでいただけるよう努めます。戦後 80 年の節目にふさわしい演出や具体的な内容については、現在関係者と協議中です。

戦後・空襲から 80 年という節目を迎えるにあたり、空襲殉難者の慰霊、復興、平和への祈りを込めた花火大会にしたいと考えています。ポスターに「白菊」を掲示しているのも、その思いを象徴しています

資料に基づいて花火大会の概要についてご説明します。

花火の規模は、大型花火協賛者のおかげで昨年と同等の規模を維持し、両日とも大型花火 39 台を打ち上げます。長生橋のナイアガラは、橋の改修工事のため、今年も実施しません。代替のライトアップについては現在協議中です。

また、週末開催による混雑による雑踏事故防止のため、今年も全席有料とします。チケットを持たない方の会場周辺への来場を避けるため、YouTube や TVer などでの広報活動を実施します。

交通対策として、公共交通機関の利用促進に加え、民間の駐車場を借り上げる「軒先パーキング」の拡充など、駐車場確保に努めます。大きな変更点として、国営越後丘陵公園など公式駐車場は、昨年までの先着順から、今年は全て事前予約制となります。これは、昨年発生した駐車場周辺の路上駐車問題を解消するための対策です。この変更点については、広報活動に力を入れていきますので、メディアの皆様のご協力をお願いします。

観覧席の見直しについて、観覧者の滞留や混雑、エリアの一部だけ過剰に混み合うなど、偏りが目立った会場について、いくつか変更して改善をいたします。

陸上競技場フィールド席は、これまで地面に直接座る形でしたが、椅子席に変更して、快適に観覧できるようにします。

また左岸に今までなかった車椅子席を陸上競技場内に新設します。

大手大橋下流の北エリアは、エリア内で席が自由であったために混乱が一部生じたため、ブロック指定席としてお客様が安全で快適に観覧できるよう改善します。

次にチケット販売についてです。

今年も市民先行販売を実施します。価格につきましては昨年と基本的に同額です。新設の席については新たな価格を設定しております。

販売方法・スケジュールですが、市民の皆様には 4 月号の市政だよりと一緒にチケット申し込みパンフレットにてご案内をします。パンフレットは申し込み用紙がついております。

4 月 30 日までに、パンフレットの専用申し込みはがきのみで申し込みをいただきます。この点も変更はございません。

抽選を行った後、5 月 23 日までに、お申し込みいただいた全ての方々に抽選結果をお知らせいたします。その結果、売れ残りがあったもの、あるいは市民の方がキャンセルした分につきまして、5 月 26 日月曜日からインターネットで一般販売します。

花火大会の観覧席には限りがあるため、昨年も市民先行販売で抽選に外れた方がいらっしゃいました。特にマス席は人気が高く倍率も高いため、落選の可能性があります。パンフレットには倍率も掲載されていますので、お申し込みの際の参考にしてください。なお、マス席のような人気席は、8 月 3 日より 8 月 2 日の方が倍率が高くなると予想されます。

次にチケットの高額転売対策についてであります。

チケットにつきまして高額転売によって、適正な価格でご覧いただくことができないというご意見などをたくさんいただいています。この点について、今年からは観覧チケットに購入者の氏名を記載させていただくことといたしました。会場で確認することがあるということをメッセージとして発信することによる抑止効果に加え、フリマサイトなどで記名式のチケットについては取り扱わないとしている事業者がいることから、そういった面で

の抑止効果を期待するものであります。

また、リセールにつきましても、公式再販売のシステムを改善して、使い勝手の良いものとして、やむを得ず不要となったチケットのリセールができるように誘導したいと考えております。

詳細につきましては、会見資料およびパンフレットの通りです。

(記者)

今年戦後 80 年というところで、意義を発信していくということでしたが、具体的に事前の発信も含め、どのようにして戦後 80 年の意義を伝えていくか、また、花火を通じてどんなところを見てほしいといった思いを改めてお聞きできればと思います。

(長岡花火財団 渡邊常務理事)

戦後 80 年ということで大きな節目ではあります。改めて慰霊と復興と平和の祈りというメッセージを発信していきたいと思っています。長岡花火で現在の形の原点が、そもそも昭和 20 年の空襲を受けて、22 年から始まった煙火大会からの流れであるため、毎年慰霊、復興と平和の祈りを込めてあげているということではありますが、改めて 80 周年ということで何をするかというのは、これから長岡市や青年会議所、あるいは NPO 法人ネットワーク・フェニックスと協議をしながら、8 月の大会までに決めていければと思っています。

80 年ということでさまざまな事業が、長岡市でも計画されていると思いますので、その中で花火大会がどういった位置づけで、何か一緒にやれるものがあるのか検討したいと思っています。

(記者)

高額転売対策、今年は新たに名前記入制ということで、昨年もそのような事例があって問題になっていたかと思います。改めてこれから販売が始まる時期なので、購入者への呼びかけなど、利用について市長からもコメントをお願いします。

(市長)

長岡市民の方に先行販売となっていますので、市民の方でぜひ観覧席で花火を見たいという人は、しっかりと応募していただきたい。もちろんその中で 100% 手に入るというわけではありませんが、ぜひこのチャンスを逃さずに、申し込みをしていただきたいと思っています。

高額販売という問題がやはりいろいろなイベントで生じている課題であるので、いろいろな関係者が力を合わせて情報交換しながら、違法な高額販売が行われないように、財団にもまた頑張ってもらいたい。また、私としても情報収集しながら、さらなる対策というものを考えていきたいと思っています。

(記者)

昨年の抽選倍率を市民向けのパンフレットに新しく掲載ということですが、一般販売の方でも同じように倍率を記載する予定はあるのでしょうか。

(長岡花火財団 渡邊常務理事)

パンフレットの中で記載した倍率はあくまでも市民先行販売での倍率ですので、これを参考にして、当たりやすいように応募してもらいたいという趣旨で載せております。

一般販売についてはこういった数字を掲載する予定はございません。

(記者)

一般販売だと、例えばホームページで記載するときに参考値として載せないとか何か狙いとしてはあるのでしょうか。

(長岡花火財団 渡邊常務理事)

状況としては昨年もそうですが、ホームページ上ではたくさん余ってるところは二重丸、残数に応じ丸、三角として掲載しています。

一般販売自体がもう Web にありますので、紙というよりもそういう形、数字ではないですが記号である程度の状況をお示しするような形になります。

(記者)

転売対策について、新しく名前を記入するということですが、例えば購入者が名前を書いて転売した場合、実際当日に（会場に）来た方に名義の確認をしたりするというものなのか、それともあくまで抑制として記入をお願いするというものなのでしょうか。

(長岡花火財団 渡邊常務理事)

基本的には高額転売を防ぎたいところの一つである記名式について、記名があると、フリマサイトに載せられないことが理由の大きな一つ。

本人確認について、チケットにも本人確認をさせていただくことがありますという記載はしていますので、実際は基本的に身分証明書の確認や聞き取りなどを想定しています。例えば口頭でお名前を確認するなどの運用についても周知していきたいと考えています。

(記者)

チケット高額転売対策についてお尋ねします。

昨年もフリマサイトなどの転売の問題があったと思いますが、財団として具体的に何件ほどの転売を確認されたのでしょうか。

また、具体的に定価いくらもののがいくらで転売されているのを確認されたか、わかる範

囲で教えていただければと思います。

(長岡花火財団 高見理事長)

数については把握していません。

転売された額としては、56 万円で販売されており、売れたかは確認できていません。

(記者)

56 万円で販売されていたものは定価いくらでしょうか。

(長岡花火財団 高見理事長)

1 マス 4 万 8000 円分の席です。

(記者)

リセールの手続きの簡略化というのは、つまりどういったことをされるのかというところを少し具体的に伺えますでしょうか。

(長岡花火財団 渡邊常務理事)

リセールサイトが昨年実績で 4000 件近くご利用いただきましたが、チケットを買われて、当日急な用事ができて行けないという方が、リセールサイトの方に申し込み、その際に本物のチケットを送っていただく手続きがありました。

それをもって受付をするが、やはり受け取るまでに時間がかかり、郵送する手間もかかります。今回は写真を送ってもらうことで出展を受け付けることが可能になりますので、より出展しやすくなります。本当はリセールサイトを使いたいのが難しいので、さっき言った高額でいろいろあるサイトに出す方もいらっしゃるかもしれません。この手続きを少しでも簡単にすることで、リセールサイトの利便性を図るということで、返す手間を少し簡略化するということです。

(記者)

複数の方が家族や友人の分のチケットを購入する場合、購入者名のみが記録され、同行者の名前は記載されないと思いますが、当日、購入者と同行者が別行動をとる可能性も考えられます。どこまで細かいケースを想定すべきか、その点について、対応方針をお聞かせください。

(長岡花火財団 渡邊常務理事)

当然名前が書いてあるわけなので、ベンチ式マスだと 8 人定員ですが、8 枚のチケットを持って別々に入場される方がいらっしゃるの、確認の仕様としては購入者の名前を確認

するなど、そういった形になるかと思います。

大手転売サイトが記名チケットの取扱をしない方針を打ち出していることは、転売経路を閉ざす効果があり、転売抑止につながると考えています。また、会場での確認も可能な範囲で実施することで、更なる抑止効果が期待できると理解しています。

(記者)

駐車場の事前予約などについて教えてください。

(長岡花火財団 戸田局長)

私どもがご用意をさせていただく駐車場は全て有料になっております。受付からあと当日の確認まで、軒先さんのシステムを使わせていただく事前申し込みになります。どんな車が停まるのか、どなたがお買い求めになられたのかなどの情報を、インターネットでお申し込みをいただいて、そこで当日お越しになられるときに、確認をするというやり方になっております。

金額は場所によって変わります。パンフレットに記載されている公式駐車場の抽選受付は、6月20日から開始します。パンフレット下部の「お申込みについて」にある3つのQRコードのうち、真ん中のQRコードを読み取ると、駐車場の場所、料金、台数などの詳細情報を現在のものですがご確認いただけます。

(記者)

ナイアガラの(長生橋)改修工事による中止というか延期について、昨年も工事の関係で、火災などの影響が懸念されるため中止ということで、今年の開催については事業主体者側と何とかできるように調整していきたいという話があったと思います。何かしらの対策もできたのではないかと思います。また今年も2年続けて中止になった、ネックになったところというのはどういうところでしょうか。

(長岡花火財団 高見理事長)

できるだけ回避できないか努力したが、工事をしている側は一定の工期の中で修復工事を終わらせたいということで日程の調整がどうしてもつかなかったということ。また、今年の工事場所が比較的花火を設置する中央部に近いところをどうしても工程上やらざるを得ないということで、当方としても安全を最優先とし無理はできないという判断に至りました。

(記者)

その理由については、確か昨年も足下駄による影響と確か記憶していますが、そこは変わりないということでしょうか。

（長岡花火財団 高見理事長）

同じです。

（記者）

工期の関係から言うと、まだ明言はできないかもしれませんが、来年にはおそらく可能というところはあるのでしょうか。

（長岡花火財団 高見理事長）

そのように、期待しております。来年こそはできるのではないかと考えております。

（記者）

今年戦後 80 年ということで、どのような花火大会になってほしいかという期待感や、どのようにしのんでいきたいかという思いがあれば教えてください。

（市長）

戦後 80 年、特に長岡空襲 80 年という節目を迎え、日本の社会が大きく変化する新たな時代において、長岡の更なる発展のためには、原点回帰が重要だと考えています。長岡空襲からの復興の歩みを振り返り、米百俵の精神と平和の大切さを再確認することで、AI 時代における長岡の発展につなげたい。そして、空襲体験者の高齢化が進む今こそ、後世への継承を強化し、次の総合計画を市民と共に策定し、新たなスタートを切りたいと考えています。

（記者）

昨年ドローンがあつて花火大会が中断したというトラブルもあったと思いますが、今年はどういったような対策をお考えでしょうか。

（長岡花火財団 渡邊常務理事）

警察と協議していますが、効果的な排除方法は現状見つかっていないため、まずは会場内への落下事故防止を最優先とし、広報や呼びかけによる注意喚起に重点を置いて取り組んでいきます。他の花火大会でも同様の対策を実施しており、引き続き警察と連携しながら対策を検討していきます。

（記者）

昨年ですと 34 万人が来場したという発表になっていたかと思います。今年はどれぐらいになるかという見込みがあれば教えてください。

（長岡花火財団 渡邊常務理事）

昨年は金曜日・土曜日開催で 34 万人分の席が完売しましたが、今年は土曜日・日曜日開催のため、販売数は若干減少すると予想しています。土曜日は混雑が予想されますが、日曜日は比較的落ち着く見込みです。具体的な販売枚数は今後の状況次第ですが、昨年よりは減少すると考えています。

（記者）

市民向け販売の倍率を公表する一方で、一般向け販売については残席数を記号で示すのようですが、これは一般向け販売の倍率を公表すると転売を助長する可能性があるためでしょうか？その点についてのご見解をお聞かせください。

（長岡花火財団 渡邊常務理事）

市民先行販売の倍率はあくまでも昨年の参考例として提示しており、今年の倍率を保証するものではありません。「3.5 倍だった」「1 倍未満だった」といった昨年の数字にこだわることなく、参考程度に捉えていただきたいと思います。市民の皆様には必要な枚数だけを購入していただき、転売目的での過剰な購入は控えていただきたいと思いますと考えています。倍率表示の目的は転売抑制ではなく、市民への情報提供です。

【会見項目 2：「価値」で選ばれる長岡産米 3 大ブランドへ

中山間地域の農業者を応援する新ブランドを立ち上げ！】

（市長）

中山間地域の長岡の農業を支えていくということが、今求められています。人口減少・過疎化が進む中山間地域を支援するため、長岡市は高品質な農産物を活用した新ブランド「NAGAOKA MOUNTAIN GIFTS（ナガオカ マウンテン ギフト）」を立ち上げます。

ブランドコンセプトは「守り、育てる。山の恵み。」で、ロゴはチェックマークと長岡の頭文字「N」を山々の風景に溶け込ませたデザインです。市が認証した米や農産物、加工品を 10 月頃から販売予定です。

この新ブランド米を、既存の「金匠」「小さな生き物たちと育むお米」と並ぶ長岡産米の三大ブランドとして位置づけ、普及・販売促進を図ります。この長岡産米の 3 大ブランドの商品を、道の駅ながおか花火館で 4 月 1 日から 14 日まで期間限定で販売します。本日発表した「NAGAOKA MOUNTAIN GIFTS(ナガオカ マウンテン ギフト)」の米だけではなく、ここサンプルがありますが、かぐら南蛮味噌なども加えた約 20 品目を先行販売として

取り揃えて、長岡産の食材の魅力を発信してみたいと考えております。

また、ふるさと納税型のクラウドファンディングを活用し、中山間地の農業生産活動を支援していきます。

(記者)

先行販売会の 20 品目については事前に認定を済ませてあるもので一旦先行販売をして、今後も引き続き、認定の作業をして順次販売していくという理解でよろしかったでしょうか。

(農水産政策課長)

認証の基準を満たしているものをまずは先行で販売させていただきますが、これからその対象となる人たちに、周知をさせていただきながら、本格販売に向けて、品揃えとか品数というものをしっかり揃えた上で、来年度の秋に正式に、本格的に販売をしていくという流れでございます。

(記者)

販売方法について、今回先行販売は道の駅でということですが、今後例えばふるさと納税の品目に加えたりとか、スーパーとか店頭に並べたりとか、こういった形で購入を呼びかけていくのかお伺いできればと思います。

(農水産政策課長)

まずは市内の直売所、あるいは道の駅、今回もご協力いただいております花火館、さらには首都圏のアンテナショップ等々、あるいは首都圏の百貨店等も含めまして、そういったところで販売しながら展開をしていきたいと思っています。

先ほどのふるさと納税の話も、今後またしっかりと対応させていただきながら、普及をしていきたいと思っています。

(記者)

「中山間地域」の定義、農業者による申請と市の認証のスキームを教えてください。

また、認証を得た人は、例えばロゴマークやシールなどを何枚か使えるようになるだとか、印字して包装をできるようになるだとか、そのあたりについても教えてください。

(農水産政策課長)

会見資料の認証基準というところをご覧くださいだと思います。中山間地域等直接支払制度の対象となる集落協定の構成員である農業者を新ブランドの対象としています。今後、制度内容を周知し、市による認証を受けた生産者にはロゴマークのシールを提供します。

生産者は商品にシールを貼付することでブランドの普及を図ることが可能となります。

(記者)

認証するのは市なんですよ。

(農水産政策課長)

認証するのは市です。その認証基準に適合しているかどうか、そういった集落協定に入っているかどうかということを確認しながら、市の方で認証する予定でございます。

(記者)

これを作るものの背景となる、現在の長岡市の中山間地域というものの課題、この地形や高齢化、人口減少が書いてありますが、改めて市長として現在長岡市の中山間地の現状、課題をどう認識されているかということ。また、このロゴを作るということで、その課題解決のために実際の中山間地で農業されている方にどのように活用してほしいかというところを改めてメッセージも含めてお願いします。

(市長)

中山間地域は食の魅力にあふれているものの、その商品化による地域活性化は十分とは言えず、後継者不足や資材高騰などの課題も抱えています。そこで、中山間地の農業を活性化し、生産者の意欲を高めるため、長岡市は積極的にこの新ブランドに取り組んでいきたいと考えております。

ブランド米の生産量や適正価格での販売は難しい課題ですが、現状を打破するためにも、積極的にブランドをアピールし、中山間地の農業を持続可能なものにしていきたいと考えています。

(記者)

今米不足で放出米なんて言われていて、5キロ当たり今4000円以上していますが、このブランド米は大体5キロ当たりいくらぐらいで販売されるのでしょうか。

(農林水産部長)

米価高騰の現状を受け、ブランド米だからといって価格を高く設定することは困難です。産地や品種による価格差が縮小しているため、ブランドだからこその価格設定は難しい状況です。長岡市では年間約100万俵の米が生産されています。米価が10円上がれば1,000万円、100円上がれば1億円、500円上がれば5億円の効果がありますが、まずはこのブランドシールによって選ばれる産地となることを目指します。その上で付加価値をつけることができれば、効果は倍増すると考えており、そのようなブランド化を目指します。

(記者)

「金匠」と「小さな生き物たちと育むお米」は道の駅などの直売所で販売されていると先ほどお聞きしましたが、これはスーパーでも販売されているのですか。

(農林水産部長)

現状では、新ブランド米は地元での流通が少ないですが、「金匠」や「小さな生き物たちと育むお米」は首都圏中心に販売されています。今後は市民や消費者にもっと応援してもらえよう、市内での販売量増加を目指します。

(記者)

市長からコメントがあるということです。

(市長)

新ブランド「NAGAOKA MOUNTAIN GIFTS」は、主に市町村合併後の支所地域・合併地域である中山間地を対象としています。今年は市町村合併から 20 年の節目でもあり、明日は一次合併から 20 年を迎えます。市町村合併 20 年の節目の今年度は、中山間地域の振興策に力を入れて取り組んでいきます。記念事業として市民の集いや市民企画の募集も予定しており、合併を振り返りながら新たなまちづくりを進めていきたいと考えています。詳細は後日改めてお知らせします。

また、合併 20 周年記念事業の一環として制作した「るろうに剣心」マンホール蓋（越路町ゆかり）は、現在アオーレ長岡東棟 3 階ショーケースに展示中です。皆様からもぜひご覧いただければと思っております。

【その他の質問事項】

(記者)

先週 3 月定例会が閉会いたしまして、予算等可決したかと思いますが、市長も 3 期目最初の予算編成ということで、無事可決に至った手応えと、議会の中で議論があったかと思いますが、こういった指摘などを取り入れて来年度前に進めていくのか、抱負をいただければと思います。

(市長)

この 3 月定例会で、新年度予算についていろんな議論をいただきました。確かにいろいろな新しい取り組みについては、期待する声もいただいたわけではありますが、一方でやはりこれからの財政の問題や、あるいは物価高騰による市民の生活が心配だといった声、これが

ら先どうなるのかを懸念する意見も多くありました。

戦後 80 年、長岡空襲 80 年と申し上げましたが、戦後の日本が節目を迎えている中で、これから長岡の行政もしっかりと足元を固めていかないと駄目かなと思っております。行財政運営プランも、新年度で最終年になりますので、来年からのものをしっかり作るということ、あるいは総合計画を市民の皆さんの意見も取り入れながら作っていくということが、新年度の大きな課題になると思っております。

これからこの 1 年間だけ取っても、何が起こるかわからないという状況だと考えておりますので、臨機応変に、補正予算も含めて執行というものを想定しながら、市民生活を支えたり、あるいは将来のために必要なもの、投資についても決断していきたいなと感じております。

(記者)

先日の市議会で、特別職になるために一般職員を早期退職するときの退職金の取り扱いについて議論になったと思います。

市長も一般職から特別職になられておりますけれどもその際は、早期退職制度を受けられたのでしょうか。もしそうであれば、その制度、手当の割り増しを受けたということであれば、それに関してどんなふうに思っておられるのか、その感想をお聞かせいただければと思います。

(市長)

特別職で地域政策監になった時は、割り増しを受けていたかもしれません。この 10 年間その割り増しという事態は生じていませんけれど、今後の制度の適切性については、引き続き検討していく必要があると考えています。

(人事課長)

市長が退職されるときに、割り増しの支給をしております。

(市長)

割り増しを受けていました。

現在、定年が 65 歳まで延長されています。そのため、例えば 50 歳の副市長を任命する場合、通常長くても 2 期程度で退任することになり、その後のキャリアパスが問題となります。退任時の年齢や定年延長制度を考えると、これは非常に複雑な問題です。私自身も同様の立場であれば、副市長就任の申し出を受けることは躊躇するでしょう。

さらに、若い世代が特別職に就く場合についても同様に考えなければなりません。そうでなければ、将来的に特別職のなり手がいなくなり、結果としてある程度の年齢層以上でなければ就任できないという状況になってしまう可能性があります。これは望ましい状態では

ありません。

これらの問題を総合的に考慮すると、若い世代の登用も含め、特別職のあり方について検討していく必要があります。今後、これらの点についても検討を進めていきたいと考えています。

(記者)

制度の見直しも今後あり得るということですか。

(市長)

それも含めて考えていくべきだろうと思っております。

(記者)

屋内退避の運用を見直す、原子力規制委員会の検討チームが先週の 28 日に報告書をまとめられたと思いますが、退避の期間ですとか、解除の要件などが示されています。この報告書に対する市長の評価ですとか受け止めをお聞かせいただけますでしょうか。

(市長)

資料を一読したところ、屋内退避のタイミングや長期退避時の物資補給、流通・医療機関の維持など、具体的な課題への言及は少なく、検討課題として挙げられているものが多く見受けられました。提示された考え方をもとに、国が中心となってこれらの具体的な課題を早急に検討していく必要があると感じています。

(記者)

詰めていくべき課題の中に、地震などとの複合災害に関するものも含まれているという理解でよろしいでしょうか。

(市長)

そういうことです。

(記者)

長岡市は県内の全 30 市町村で構成している、市町村研究会の代表幹事の立場でもあると思いますが、今後説明を求めるとか、何か具体的にこうしてほしいというのがあれば教えてください。

(市長)

屋内退避の考え方や複合災害への言及が不十分な現状を踏まえ、まずは市町村研究会の

実務担当者レベルで事務局から説明を受け、質疑応答を行う必要があると考えています。その後、各首長による状況分析と併せて、私自身も市民目線で問題提起や提言を行っていきたいと考えています。

(記者)

一次合併から 20 年となります。市長は合併から 10 年ほど経ってから、市長になられたわけですが、その前にも長岡市職員として市政に携わっておられました。

改めて合併 20 年というところに対する所感と、その後の長岡市は中越地震などいろいろなことがあり、大変な 20 年だったと思いますが、その市の一体感の醸成ですとか、またはそれぞれの地域が個性ある輝く街ですとかいろんなテーマを掲げた中で市政をやってこられたかと思いますが、所感と、これからのまた 20 年をどう描いていくかということを含めて、少し総括的に伺えますでしょうか。

(市長)

市長就任当時は、合併に伴う財政特例により潤沢な財源がありました。しかし、特例終了後の財政破綻を懸念し、財政再建を最重要課題として取り組みました。結果として、特例終了後の財政問題は乗り越えられたと考えています。

しかしながら、経済の停滞と急激な人口減少という新たな課題に直面しています。これは全国的な現象でもあります。長岡市全体、つまり旧長岡地域と合併地域双方にとって大きな問題です。この地域が将来どう発展していくのか、そして存続していけるのかという深刻な問題です。

そこで、合併地域については、特に観光客の増加を見据え、地域の宝を生かして観光交流人口の受け皿となるよう注力していく必要があります。また、30 年以上前から取り組んできたコンパクトシティ構想に基づき、居住の集約化も進めていかなければなりません。これは強制的なものではなく、各地域の魅力を高めながら進めるべき長期的課題です。2～3 年で解決できるものではなく、長期的な視野と目標を持って取り組む必要があると考えています。